

北京日記 2 (9 月)

- 9月1日(月)北京日本学研究中心
- 9月2日(火)初講義
- 9月3日(水)張淑英先生
- 9月4日(木)第2回講義、李平先生夫妻
- 9月5日(金)入学式、陳先生夫妻
- 9月6日(土)南開大学国際シンポジウム初日
- 9月7日(日)国際シンポジウム2日目
- 9月8日(月)国際シンポジウム最終日
- 9月9日(火)院生と夕食会
- 9月10日(水)打合会
- 9月11日(木)日本学総合講義・月見会
- 9月12日(金)陶先生講演会
- 9月13日(土)大鐘寺・ルフトハンザ商城
- 9月14日(日)雲居寺・十渡
- 9月15日(月)ワイン
- 9月16日(火)北京外大学長招待宴 モンゴル料理と舞踊
- 9月17日(水)雨降り
- 9月18日(木)9・18
- 9月19日(金)五塔寺
- 9月20日(土)新築記念講演会
- 9月21日(日)船遊び
- 9月22日(月)修士論文
- 9月23日(火)鐘楼・鼓楼
- 9月24日(水)社会系研究会
- 9月25日(木)日本学総合講座
- 9月26日(金)雨降り
- 9月27日(土)長城・明陵
- 9月28日(日)振り替え授業
- 9月29日(月)人民大学講義・外国専門家文芸晚会
- 9月30日(火)敦煌へ

9 / 1 (月)

双楡樹早市へ買出し。トマト5個 3.7元、キャベツ小1個 1元、ドジョウインゲン2掴み 1元、焼き包子 10個 2.5元、豆乳1柄杓 0.5元。トマトは完熟、インゲンは新鮮で美味、包子は蒸したものを焼いた感じで美味しい。豆乳は飲みきれず、煮ながら湯葉を採る。これも美味。

9:20の車でセンターに行く。守屋さんと同乗。マイクロバスでなく乗用車で、裏道を走る。書類を畔上さんに渡して、教科書を受け取る。携行図書は現在通関中とのこと。前任者が作成した飲食店マップをいただく。店の位置がすでに移動しているものがある。九頭鷹酒店もそうだ。変化の激しさがうかがえる。

前の中国側主任教授の厳先生と立ち話で、南開大学の王先生のことなど。北京の変化の激しさについて、必ずしも良い方向とは思えないと申し上げると、ケンタッキーやマクドナルドで育った最近の若者には分かってもらえないことだとのお答え。

帰途、外国語大学書店で北京地図を購入。大学の門付近は、新入生の荷物を番している親たちで一杯だ。理工大学を抜けると、校庭でバルーンを上げて式典をしている。入学式かと思ったら、建物の起工式で、作業員集団を前に関係者たちが挨拶をしていた。どこの大学も再開発ラッシュだ。学内市場は、常設店だけで、朝の引き店の姿はなかった。

昼は、恵子と元が城郷スーパーで買ってきた餃子と焼き麺。餃子は、注文に応じて具を包んでくれる生餃子で、500gで7元。三種類 18個で8元。なかなかの味だった。

夕方、元の航空券を購入、上海まで1000元。ホテル売店でパンダ葉書45元、これは高め。双安商場前のスーパーでワイン(王朝3種)・ビールに中国産ブランディ(26.5元)を購入。このワインは、甘すぎ。15元のは、80%だけがブドウ酒。23元には少し甘味添加。27元でようやく無添加100%ワイン。これも甘口。ブランディは飲める。

9 / 2 (火)

双楡樹早市で、そら豆荚入りを見つけて購入1.5元。豆乳、包子ほかで、10.2元。高かったのはカリフラワーで、大が3.7元。

9:20のバスで初出勤。車中で、前学期に来ておられた池内先生から、バーなどについての御指南を受ける。センター講師控え室で、元がHPをupしてくれる。時間5分前に、張さんが迎えに来てくれた。401教室で4人の18期生に第1回の講義。経済と社会の関係を話して、皆さんの修士論文のテーマ関連を話題にする。おおむね社会学分野の絞ったテーマだから、来年3月からの日本6ヶ月留学の成果は挙がるだろうが、そのテーマの持つ広がりには判っていないようだ。これからときどき、そのテーマの意味するものを話すことにしよう。元も一緒に教室に入って、顔合わせをする。来年来日の際、日本に知人がいるのも悪くはなからう。

放課後、日本教員の皆さまと昼食。畔上さんの案内で東亜家常菜へ。緑豆麺サラダ、湯葉の青唐辛子炒めなどで、@16元。西瓜と甘菓子店のサービス。和栗先生から、オーダーメイドの婦人服へのお誘いがあったが、即答は無理。

この間、シマンテック試用版でパソコンのビールスチェックをかけていた。帰室すると、すでに入り込んだビールスが2つ見つかった。消去するが、不安は残る。常駐の中国製ビールススキャンがチェックしなかったということだ。念のため常駐スキャンのアップデートを見ると8月19日。これでは、ビールスが入っても不思議ではない。他の方々のupdateはごく最近になっている。それでも、汚染の可能性は捨てきれない。清水先生に専門家によるチェックをお願いして帰宅。

午後は、琉璃廠に。栄宝齋で便箋と封筒を、向かいの書店で習字のお手本、王羲之、顔真卿と半紙を購入。歩いて崇光Sogoへ。醤油差など小物を買う。タクシーで帰宅、21元。そら豆で晩酌。日本のそら豆より、小粒で堅い。ニラ卵、ちまきなどで夕食。

皆さまに、HPのupのお知らせをメーリングリストで送信。拳名の適否をうかがう。

今日、青山学院の羽坂理事長から残暑見舞いの葉書をいただいた。これが、北京で受け取る私信の第1号。頤園公寓入口の事務所にメールポストがあり、郵便や新聞はそこにとど

く。東京大学出版会の池田さんに頼んだ「概説日本経済史」10冊は、国際郵便で、事務所の人が部屋まで届けてくれた。小包扱いだと、郵便局から通知が来て、受け取りに行く方式だから、本は郵便扱いだったようだ。

9 / 3 (水)

朝、農業大学(中国農業科学院)に散歩。蜂蜜・ローヤルゼリーなどを売る店舗が並んでいるがまだ開いていない。池内先生の話の花弁店もまだ見あたらない。日中の開店なのだろう。

散歩、ジョギング、体操、バドミントン、運動器具をつかったストレッチ運動など、多くの人が健康運動をしている。芝生の草取りをするボランティア・グループも見受ける。健康と環境への意識は、ずいぶん高まってきたようだ。

朝食は、ホットケーキと温野菜。恵子は、どうも調子がおかしいという。先日の天麩羅もサクサクしすぎだ。粉の袋を確認すると、饅頭用にイーストが入っている加工粉だった。これで納得。

初書道は、王羲之の「心」にする。久しぶりの筆で、なかなか難しい。ソウルで買った筆はオオカミの耳の毛とのことだったが、紙との相性はもうひとつの感じ。慣れればどうにかなるだろう。

昼の炒飯は、日本米だが美味しく、作った恵子も、火力が強いせいかと、意外の出来に驚いている。オープン無しの2口レンジで、大きいの中くらいのバナーはさすがに火力が強い。

3:00、中国社会科学院日本研究所経済班主任の張淑英先生が見える。貝塚啓明さんの弟子で、仙波先生のご紹介でお会いすることになった。中華日本学会での講演を10月15日に決めてから、いろいろのことを伺う。所有権・使用権が、実質的には発生するが、法形式的には明確ではないらしい。ケースによって異なっていて、過渡期的な複雑さがあるようだ。庶民の貯蓄は、都市では、郵便貯金もあるが銀行預金の方が多いとのこと。対日感情は、小泉内閣いらい悪化していて、北京上海高速鉄道の行方も不明瞭。毒ガス問題よりも、靖国参拝問題の方が重いという見解だった。庶民は、日本よりもアメリカの方が好きらしい。壁ボードを作ろうと思って材料・道具の販売店を伺うと、ホームセンターは無いとのこと。中国男性は、日曜大工はしないので、まだ専門店はないようだ。

恵子達が買い物に行っている間、China Daily をめくっていると、中国経済の隠された問題点として、投資と消費のインバランス、財生産に比べてのサービス生産の遅れ、社会保障の不十分さから庶民は財布のひもを締めて貯蓄に励んでいることが指摘されている。鉄鋼価格など生産財価格は上昇するが、消費者価格は低迷するので、企業の採算は苦しいのが現状。

ニラレバ、厚揚げの煮物、湯葉の煮付け、包子などで夕食。

9 / 4 (木)

雨で散歩には出られない。

7:30、バスでセンターへ。19期生も加わって8人の院生と、日本・中国・アメリカ社会の比較をテーマに語る。ベネディクト「菊と刀」は読まれていて、「恥の文化」を日本の特徴と捉えているが、中国の「面子」を重んじる文化との違いはあまりはっきりしていない。神仏を信じないところは同じようだから、「罪の文化」ではないが、たしかに「恥」と「面子」の区分は難しい。日本的生産方式、大学生活、法治国家、若者の生き甲斐などを話題にする。9日(火)夕食会を開くことにする。

10:10のバスで帰宅。China Daily では、北京の犬規制の話が面白かった。これまで、犬を飼うと初年度5000元、次年度以降2000元を市に支払っていたが、新しい規制条例では、初年度1000元、次年度以降は500元に引き下げられる。ただし、犬の立入禁止地域やエレベータ使用禁止などの新しい規制が加えられる。ガイド犬・介護犬と1人暮らし老人の犬は例外適用。飼育料引き下げで、もっと犬の数は増えるだろう。

他には、人民元切り上げ問題、農民の窮状の記事などが目立つ。スノー財務長官との会談

で、温首相は、元の安定の必要を強調し、中国人民銀行総裁は、国家管理銀行の改革と WTO 加盟後の変化が一段落することが元の変動相場移行の条件と発言している。まだ切り上げはしそうもない。

農民の問題では、地方政府による工業開発用の農地買い上げが、農民を困窮させているとの記事。買い上げ価格が市場価格の数ダース分の 1 (数十分の一) とかなり低いので、土地を売った農民は貧困化する。だいたい、1987 年から 2001 年までに、150 万畝が、一軒当たり数百元から 4 万元程度で買い上げられ、なかには強制買収するケースもあるようだ。買い上げ価格を正当な水準にすることと、農民を社会保障のネットワークに組み込むことの必要性を主張する記事だった。

昼食は、カレーうどん。

2:00、中国社会科学院工業経済研究所の劉さんが見える。飯田経夫さんの名古屋大学時代のお弟子さんで、近代経済学を専攻したが、今は、経営管理を専門にしている。由井先生の引受で、訪日されるので、元との顔つなぎをする。

夕食は李平・易友人ご夫妻と「天外天」で。先日の「九頭鷹酒店」でのご馳走の返礼。北京ダックを主菜に、獅子頭(大きな肉団子)、日本風豆腐とピータンの冷製、丸なす炒め、地鶏煮込み、羊肉炒め、中国豆腐炒めなど。安価で美味。事情通の李先生の話はいつも興味深い。

9 / 5 (金)

朝、理工大学へ行くが早すぎてまだ朝市が店開きしていない。北門から出て小南庄の朝市に歩く。賑わっているが、よく見ると品物はあまり良くない。安いが品質は落ちるようだ。途中の「杭州小包子」で 1 籠 (10 個入り 2.5 元) 買ってから、理工大へ戻ると店は開いている。ライチー、トマト、インゲン、包子 (6 個、1.5 元) を購入。

9:20 のバスでセンターへ。共同研究室で、日記を up。陳北京外国語大学学長が見えたので、みんなで記念写真をとる。10:30、入学式。陳学長、教育部 (外交部?) 代表、日本大使館代表、国際交流基金代表の挨拶、新入生代表の決意表明の後、全員で記念撮影。新入生代表は、男子院生が中国語、女子院生が日本語で挨拶。綺麗な日本語だった。昼食会は失礼して帰宅。

陳晋先生夫妻と昼食。中国自動車産業に関する著作で博士号をとられた沖縄大学教授で、中国経済産業事情をいろいろ伺う。天津トヨタの手作りの生産方式に驚いたと話すと、中国の工場としては珍しくないとのこと。やはり、労賃が低いので、省力型技術は投資効果を十分検討したうえでその投資額を決めるようだ。

奥様の林さんは大学院生で、葉綺先生のお嬢さん。北京生活のノウハウを伺う。楊貴妃がライチーを早馬で運ばせた話が、このライチーを食べてみて、納得できない。つまり、ライチーはかなり保存性のいい果物だから、なぜ早馬なのかと伺うと、表面が茶色になっているのは庶民の食べるライチーで、産地で採りたてのものは皮が赤色で、食味も違うのだそうだ。楊貴妃は赤いライチーを好んだというわけ。日本の味噌がソゴーになかったと話すと、日本大使館付近に日本食材の専門店があるとのことのお答え。在留日本人向けの情報ネットワークもあるらしい。後日、教えてくださるはず。燕山ホテル前の広東料理店は、豚の皮パリパリ焼きをはじめ、安くて美味。

天津行きの準備をして、ありあわせで夕食。量が多い料理の余りを持ち帰るのが最近の中国の習慣らしく、おかげで、外食すると冷蔵庫が賑やかになる。アメリカでも持ち帰りは普通だ。日本食は、余りが少ないせいか、持ち帰りは習慣化していないのではないか。宴会料理を折り詰めにする慣習はあったはずだが。

8:00、喬さんが迎えに来てくれて出発。北京空港への道を運転手が迷ってしまい、高速沿いの混雑した一般道路に入ってしまった。政治学院の乗用車だが、北京市内は苦手らしい。道端の人に尋ねながら、どうにか機場高速に乗る。早稲田商学部の久保先生を出迎えてから天津へ。11:30 ころ南開大学到着。愛大会館 302 号室に投宿。学生用の 2 人部屋で、ホテル風に作られている。本棚・机が 2 つずつとテレビ・冷蔵庫があるが、戸棚はホテルサイズ

で収納スペースが少ない。

9 / 6 (土)

朝食は、愛大会館食堂でカードで登録して取る方式。相変わらずの簡単なビュフェ。

8:30 の開会式に行くと、日本研究院まへの楊先生ご自慢の庭園には滝に水が流れている。かなり大量に流すので元気はいいが、日本風とはいえない。沈先生にこの前の写真を入れたフロッピーを渡す。

開会式は、まず范曹さんの筆になる「南開大学日本研究院」の額の除幕ではじまり、Pang 副学長、山崎国際交流基金北京事務所長、薛教育部国際協力交流局長、楊先生の挨拶。山崎所長は、昨日は日本語だったが今日は中国語の挨拶。上手に聞こえた。後で聞くと、昨日は日本学研究センターだったので日本語を使ったとのこと。

皮中国共产党天津市委委員会常務委員が特別講演をして、天津滨海新区の発展可能性を語る。立派な体格と風貌の人物だ。

記念写真撮影で研究院正面に集合。Pang 先生に再会のご挨拶。昨日韓国から戻られたそうので相変わらずお忙しい。楊先生の説明で、南開大学女子バレーチームを率いてユニバシアードに行かれたことが分かる。見事に優勝したとのこと、お祝いを申し上げる。

10:00 から午前の基調報告。山澤逸平国際大学長、巫寧耕北京大学教授の司会で関(カン)志雄産業経済研究所主任研究員(中国から出向中)の報告「アジアのなかの日本とその役割」、コメントは木下俊彦早稲田大学教授、張毅君元中国カナダ大使、巫教授。山澤さんは、冒頭、東アジア地域の経済システムとしては英米モデルを選ぶか別のモデルを選ぶのか検討するべきであるとの問題を提起した。

大西京都大学教授が、アジアにおいて中国はリーダーシップをとるつもりはないとの張コメントに関連して、中国は虎が猫のふりをしているように感じられるが、むしろ、理念を明確にしてリーダーシップを取るべきだと大胆な発言。沈さん、喬さんも発言。山澤さんに促されたので、信頼関係が大切との張コメントに関連して、アウシュビッツの清掃に出かけるドイツの中高生の話をひきながら日中の信頼関係を築くために日本のやるべきことは多いと発言。ソウルの西大門刑務所博物館に自由行動で見学に行った日本の女子中学生の話は時間の関係で紹介しなかった。

昼は専科楼食堂で歓迎レセプション。いろいろな人と名刺の交換。楊東さんの指導教授の一橋大学専門大学院教授布井さんと相席。中国の判例のデータベース化に協力されている由。中国では判例がすべて公開されているわけではないとのことには驚いた。

赤い顔で午後のセッション。金明善遼寧大学教授、郭洋春立教大学教授の司会で、金元韓国産業資源部長「東アジアにおける経済統合の新しい枠組みとルール」、平川名古屋大学教授「東アジア FTA の展開と課題」の報告。金報告に 2 重構造論があったので、国内の 2 重構造と国際間の発展不均等の関係を理論的にどのように捉えることが出来るかを、山澤さんに質問した。答えは後ほどということになった。

ティーブレイクの後は、岡武蔵大学教授、宋東北師範大学教授の司会で、徐商務部国際貿易経済協力研究院研究員の「東アジア地域協力を推進する中・日・韓相互提携」、薛南開大学経済学院教授の「東アジア経済貿易協力パターンの比較研究」の報告。

今日の報告では、中国脅威論と人民元の切り上げがしばしば問題になった。脅威論は虚構との見解が多数。人民元は切り上げ賛成論と反対論があるが、20-30%の大幅切り上げは皆反対で、年 3-4%の切り上げなら良いというのが若手の意見。新華社の李長久高級編集員は海外の研究を引用しながら絶対反対論だった。

同時通訳は、王健宜先生が抜群に上手で、許岩さんはすこし舌足らずの可愛い声。金さんの韓国語は中国語を経由して日本語に訳されていた。

夜は愛大会館でパーティ。一階は結婚披露宴の貸切で、2 階の大広間で食事。入り口に爆竹が並べてあったから派手に鳴らすのだろう。東北財経大学の金教授と相席で、大連やハルビンの話をする。スープのなかの野菜について、東北の酸菜だと教えていただいた。白菜を熱湯にくぐらせてから、塩を加えるか無塩でカメに貯蔵して発酵させたもの。酸味が

あって美味しい。楊先生が餃子に入れるといていたものらしい。天津付近で採れる「小站大米」が美味しいらしい。

楊先生と今後の予定を打ち合わせ、月1回くらいセミナーを持つことにした。

8:00 過ぎ解散。沈さんと東北财经大学劉教授と立ち話。教授で年間10万元ほど収入があっても、手当部分が多いので、定年後は、基本給のみ保証で年間3万元程度の年金になるとのこと。退職金はゼロ。

1階のベンダーのビールが売り切れで、外に散歩に出る。大学を取り巻く河に映る街灯を撮影。テレビ塔のうえには半月。市中心部方向に花火が上がっている。単純な大玉だが、綺麗だ。肩を組む若い二人連れもファインダーに。清涼飲料を売る露店の脇の路上では中国将棋をする若者もいる。自転車、三輪車、自動車入り混じっての夜の街路は活気がある。名曲喫茶や上島珈琲もあるので、上島に入るとグランドピアノの生演奏中の高級感ある店。客はほとんどいない。メニューを見てあわてる。コーヒー28元。ポケットにはベンダーで買う予定で持ってきた小銭が20数元しか入っていない。メイヨーと言って小銭を見せたら、黒いスーツの上級ウエイトレスが、20元を取ってOKという。ガテマラを注文。カウンターの向こうではバーテンダー風の男性が、ミルから直接サイホンに粉を受けて淹れてくれる。今の金銭感覚では20元のコーヒーはすこぶる高価だ。たいした味ではないが、ゆっくり啜りながら聴くともなくピアノを聴いていると、中島みゆき！しかし、1曲だけでほかのポピュラーに移っていった。天津で、みゆきを聴こうとは！

残金4.5円でコンビニに入りビール@3.6元を1缶買う。手を取り合う二人連れたちが歩く傍らには、道に座る肢体不自由な中年男性。わずかな釣銭を手渡してポケットを空にする。若い二人は何を未来に期待しているのだろうか。この国はどこに行こうとしているのだろうか。

9/7(日)

朝は分厚い報告集のペーパーを読んでから食堂へ行く。奇妙な卵料理、プリン風の厚焼き玉子。

8:30 から分科会で、楊東君の報告がある第2分科会に出席。巫先生(北京大学)の「東アジア地域協力と中国」、大西さん(京都大学)の「今後における中国の国際的影響力について」、金先生(遼寧師範大学)の「要素流動の中日経済構造への影響」、楊君(一橋大学院生)の「中国における外資M&Aの現状と問題点」、布井先生(一橋大学)の「東アジアにおける経済統合と法制調和」、久保さん(早稲田大学)の「経営者インセンティブの日英比較：エージェンシー仮説と共同決定仮説」が午前中の報告。

愛大会館での昼食後、午後は、樋口先生(愛知大学)の「日系独資小企業中国進出先工場の分析」、宋先生(東北師範大学)の「東アジア経済協力と日本文化の根底」、沈さんの「東アジアにおける労働力協力の可能性について」、徐先生(雲南大学)の「雲南省と東南アジア地域の経済協力」、張先生(南開大学)の「環黄海経済圏における天津と東アジアの相互作用」と盛り沢山。

それぞれ興味深い報告だが、質疑時間が少ないのが残念。大西報告で、自動車産業が2000年から輸出超過になっているというので驚いた。同報告のWTO加盟の影響分析(5年後)では、自動車産業は大きく輸入超過となり生産額も減少する。生産額が伸びるのは紡績・アパレル・化学繊維・建築で、軽工業中心型になってしまう。ひとつの推計だが、果たして、中国政府はこうなる事態も予測した上で加盟したのだろうか？

樋口報告は、上海に進出した日本企業の職種別従業者約50人の年齢・学歴・勤続年数・給与の個人別データを紹介していてすこぶる興味深かった。工員で高卒新入男子20歳月給550元、営業員で高卒新入女子20歳月給650元、営業員で大卒新入男子21歳月給2000元。守衛、男子41歳から63歳月給500元。営業マネジャー、高卒5年勤務28歳月給5000元、業務部大卒女子6年勤務27歳月給4000元。中国人副総理は55歳で年収13万元。なかなか考えさせられる数字だ。

昼休みに、前庭の桜についたアメリカシロヒトリの大群を、受付のおばさんから鉄とビニール袋を借りて退治した。陳さんに駆除した方がいいと話したのだが、忙しそうだから、

やってしまった。おしなべて、中国の植木屋は、手入れが下手だ。虫の駆除はともかくとして、松も枝は伸び放題、ミドリ摘みも葉落しもしないから、折角の老松も見ていられないくらいいざまだ。ヒバ類も刈り込んであるのなどお目にかかったことがない。

夕食も愛大会館で会食。重複メニューは出てこないあたりはさすがだ。コーポレートガバナンスをテーマにする久保さんを李維安国際商学院長に紹介したいと思って楊先生に頼んでおいたが、李先生は北京での重要会議出席中で不在だった。

食後、コーヒーを飲みに出る途中、許さんと会ったので一緒に「名曲珈琲」に入る。ここもピアノの生演奏。中国の若者事情を聞く。やはり、日本よりもアメリカに惹かれるようだ。西洋菓子を頼むと、ベルギーワッフルにピーナツクリームがのったのが来た。マンデリンをお代わりして、95 元の支払い。樋口報告の月収額からすると、高いコーヒーだ。店内は広く、日本では見たことがないようなブランコ席もあって、新しい洋風空間ではあるが。

ご両親の待つ家に自転車で帰る許さんと校門で別れて、夜業の続く校舎建築現場の脇を歩く。建築作業員は、どの位の収入だろう。上海の守衛給までいくのだろうか？大西推計のように、WTO 加盟後、建設業が拡大しても、たいして消費財需要が伸びるわけではなからう。

9 / 8 (月)

朝は散歩をやめて、コメントの原稿を書く。同時通訳にはしないで、逐次の通訳と聞いたので、原稿を作った。

8:30 から午前の 3 報告を聞く。喬君が「日本シンガポール新時代経済連携協定と東アジア統合」を報告、なかなかの出来。休憩後、大会コメントと閉会式。大西さんは、中国に残留したご両親が新中国建設に力を貸したことを語り、その努力を息子として引き継いで現代中国の新しい局面についての助言したいとして、中国は、バンドン精神を新しくした理念を掲げるよう発言した。江瑞平外交学院国際経済系教授の次に、後掲のコメントをする。昼食会の後、浜海開発区の見学にバスで出かける。1 時間ほど走ると、新築アパートや工場が立ち並ぶ開発区に着き、ヤマハの工場を見学。ポータブル・キーボードの製造工場、ヤマハが 60%を出資した合弁企業。プラスチック成形、基盤の組み付け、組立を見る。次に、この開発区を管理する泰達 TEDA の事務所で副責任者の任炎女史（共産党副書記）の説明を聞く。TEDA とは Tianjin Economic-Technological Development Area の略で、1984 年から開発を管理している。ここは天日製塩の塩田地帯だったので、盛り土をして敷地を造成した。モトローラの主力工場があるほか、多種類の製造工場が集積し、やがてトヨタ工場も造られる。

任女史にトヨタ進出の評価を質問すると、関連工場を含めて大きな経済効果を期待すること。

夕食に向かう楊先生達とお別れして、大西さんの友人蒋南開大学経済学院教授のフィアットに便乗して天津の長距離バスターミナルに向かう。南開大学脇で周恩来像の前の高級マンションの話をする、蒋教授は、あれは泰達のビルだと教えてくださった。全国 46 箇所の開発区の中で一番の規模に成長した TEDA に対峙する周首相の心中や如何にだ。

渋滞で遅れて 8:00 ころ到着したターミナルでは、最終バスは発車していた。タクシーを使うことにしたら、料金 300 元を蒋教授が払ってしまってください。恐縮しながら大西さんと北京に向かう。

車中で、大西さんが中国のかなりの省、アメリカのかなりの州を旅した話、アメリカ・インディアンに共感して研究論文を書いた話などを聞く。近代経済学者には珍しいタイプの情熱的な若手学者だ。北京商貿大学で大西さんと別れて 11:00 ころ帰宅。

【国際シンポジウムコメント】

国際経済学、国際関係論、世界経済論、各国経済論、国際法学などの専門家の報告はみな素晴らしかった。

第 2 日目は第 2 分科会に出席したので、第 1 分科会の報告を聞くことは出来なかったのは

残念だった。

8時半から5時半までの予定時間には収まらないほどの充実した報告プログラムで、質疑・討論の時間が少ないのが惜しい感じだった。

68歳の私には、すこしきついスケジュールではあったが、疲れを感じないほど、知的な興奮を与えてくれる報告が続いた。

「東アジアの地域経済協力」というテーマは、近代日本経済史を研究してきた私にとっては、専門分野ではないので、すべての報告が新しい勉強であった。

まず、報告者の皆様に、深くお礼を申し上げたい。

専門外のテーマであるので、的確なコメントをすることは出来ないが、日本経済史研究の立場から、二つの論点についての感想を申し上げたい。

まず、山澤先生が提起された、東アジアでは、どのような経済システムが最適であるかという問題を取り上げたい。

山澤先生は、アングロアメリカン型経済システムは、皆さん、あまり好きではないでしょうと言われたが、私も同感だ。

いま、グローバルスタンダードとして、アメリカ的経済システムが強い影響力を發揮しているが、ヨーロッパ諸国はこれに反発して、ドイツは「社会的市場経済」を目指している。

アメリカ型システムは、政府の介入を極力避けて、経済の問題は、すべてを市場にゆだねるのが良いとの理念を基礎にしている。

ドイツは、市場経済には不完全な部分があるから、それを政府の経済政策・社会政策で補う必要があるとの考え方に立っている。

歴史を振り返ってみよう。

20世紀にはいると、労働運動と社会主義思想の高まりの中で、ロシア革命が起こった。資本主義諸国は、社会主義に対抗するために、社会保障を充実させ、景気調整政策を取って、福祉国家への道を進んだ。

ところが、1980年前後、マーガレット・サッチャーが英首相に、ロナルド・レーガンが米大統領になったころから資本主義には新しい傾向が現れた。経済への政府介入を縮小して、経済は市場の働きにまかせるという方向だ。つまり、福祉国家からの退却が始まった。

そして、1980年代からソ連社会主義が崩壊し始め、アメリカが「冷戦」の勝利者となると、この資本主義の新しい傾向は、ますます強まり、いわゆる「市場原理主義、マーケット・ファンダメンタリズム」が猛威をふるうようになった。

つまり、社会主義が後退したので、資本主義も福祉国家を目指す必要がなくなったことになる。労働者と資本家の貧富の格差が大きくなったので社会主義が登場したが、その社会主義が後退したので、資本主義は、遠慮なく、貧富の格差を拡大できるようになったわけだ。

これが、今の、アメリカ型経済システムが登場した歴史的な事情だ。

福祉国家を捨てて、経済格差を拡大させるようなアメリカ型システムは、人々を幸福にするとは思えない。

「市場原理主義」という言葉は、ヘッジファンドで大もうけをしたジョージ・ソロスが最初に使った。ソロスは、まさに「市場」のおかげで大金持ちになったのだが、その彼ですら「市場原理主義」は良くないと言ったのだから面白い。

東アジアでは、山澤先生が示唆されたように、アメリカ型ではない経済システムを築いたほうがいい。それがどのようなシステムになるべきか、研究することが現在の大きな課題である。

つぎに、「地域経済協力」の問題点を取り上げたい。

すべての報告は「地域経済協力」を促進することが必要であると主張していて、私も同感だ。

しかし、なにを目的にして「地域経済協力」をおこなうかを明確にする必要がある。日本史研究者としては、ここで、かつて日本帝国主義が、「大東亜共栄圏」構想を掲げてアジア諸国に多大の迷惑をかけたことを思い起こして、お詫びを申し上げておきたい。

「大東亜共栄圏」は、欧米に対抗して、アジアに共に繁栄する経済地域を建設しようという理想を掲げた、ある種の「地域経済協力」構想であった。しかし、それは、現実には、共栄を目的にしたのではなく、日本の利益、つまり「国益」を実現しようという目的のものであった。

国々が協力しあおうとするとき、一番の問題点は、このようなそれぞれの国の利益、「国益」の追求と、地域内の人々の共通の利益の追求が、相対立する場合があるのを、どのように調整するかということだ。

大西京都大学教授は、地域協力には、理念を明確にしたリーダーシップが必要だと言われたが、まったく同感だ。

ある理念のもとに各国が協力する必要がある。

私は、その理念、地域経済協力の大目的は、アメリカ型経済システムが追求するような「経済的価値」「経済的利益」では駄目だと思う。もちろん、経済的価値を大きくすることは、悪いことではない。しかし、それだけを求めると、どうしても、自国の取り分をより大きくしようという、醜い競争になってしまう。

「経済的利益」よりももっと大きな目的、理念を追求するべきである。その理念を明確にすることが、現在のもうひとつの大きな課題である。

すべてのアジアの知識人が研究すべき課題であるが、私にも小さなアイデアがある。それは、「持続可能な経済成長、サステイナブル・グロウス」を目的に地域協力を進めるということだ。

地球資源を無駄使いせず、地球環境を破壊しないという大きな枠のなかで、人々の生活を豊かにすることを目的にするのが良い。

もし、アジアの人々全員が、今のアメリカ並みの消費生活を、今ただちに楽しむと仮定すると、資源は枯渇し、環境は大破壊されてしまうだろう。

大量生産・大量消費そして廃棄物大量投棄のアメリカ型システムではない、新しい経済システムを築く必要がある。

結論は、第1の論点に戻ったが、「持続可能な経済成長」を理念として、地域経済協力が進むことを期待したい。

アメリカ型システム、あるいは資本主義の悪口を言いましたが、詳しいことは、2001年の「日本研究論集」に論文を載せてありますのでご覧ください。

日本語は、私のホームページに載せています。URLは、私の名刺にありますし、ヤフーなどで検索していただければすぐ分かります。

最後に、このような素晴らしい国際シンポジウムを開催された南開大学日本研究院に深く感謝し、それに参加できた喜びを表明させていただきたい。

本当にありがとうございました。

9 / 9 (火)

朝は、寝坊。授業に行く。快晴で気持ちがいい。青空だが、薄霞がかかっているようで、噂に聞いた北京青天のイメージとは違う。バスで篠崎先生に聞くと、これが最近の北京の青天で、むしろ良い方だとのこと。車が増えて排気ガスの為か、抜けるような青天にはならなくなったようだ。

2年生の講義。日本人の起源を、国立科学博物館のHPからの資料コピーで話す。HPをカラーで見せようと、教室でランに繋がろうとしたが、まだ、接続されていない。立派な建物だが、IT関連装置・器具の設置が遅れている。院生研究室もまだラン接続が出来ていないので、宿舎から電話線で繋いでいるとのこと。

昼食に帰ってから、社会研究室の研究会に出る。清華大学研究員で名古屋大学博士の顧林生さんが危機管理を報告。日本の危機管理体制を紹介しながら、中国での危機管理体制整備の必要を語る。院生と宋先生にわれわれが出席で、ほかの社会研究室の先生は欠席だった。市場経済化して個人の責任領域が拡大するのに対応した保険制度の整備が必要などの点をコメント。元は、デパートなど公共の場で水雑巾掃除をして滑りやすいことを例に上げながら、まだ管理責任意識が低いことを指摘。

研究会終了後、タクシーに分乗して公寓の共同利用室へ。元と3人が專家食堂に打包に行く。皆で机・椅子を並べて準備。恵子の手料理（春雨の酢の物、マカロニサラダ、春菊ゴマ和え、鶏筑前煮、肉じゃが、豚カツ、クレープケーキ）と打包6種で夕食。和食は気に入ってもらえたようだ。1年生4名、2年生4名の自己紹介。いろいろな話をする。かなり、国のためになることを意識して勉強している。しばらく前までは、修士終了後、教育研究職以外の一般民間企業に就職する場合には、2万円ほどの違約金支払いが必要だったらしい。11時ころ散会。8人をタクシーで帰す。

9 / 10 (水)

朝は双榆樹早市へ買い物。トマト・カリフラワー・3尺ささがを仕入れて、賓館前の成都小吃で肉挟み餅と小包子を買う。3尺ささがは美味しく、ゴマ和えにして朝食。

社会経済史学の書評の校正をして郵便局から発送。航空便で12.2元。

水を頼んで置いたら、ペットボトルを持ってきてくれたので、大きいタンクの水が欲しいと説明。やがて持ってきてくれた。20リットルが15元。前任者が置いていった卓上型給水器があって、冷水装置はついてないが熱水は出る。

China Dailyには、田舎の民宿がブームになりつつあるとの記事。宿泊して野草料理などを楽しむようだ。楊先生は、天津郊外で蟹釣りをしてシンポジウムのご苦労さん会をやると話していた。川蟹を肉片で釣って農家で料理してもらって楽しむとのこと。田舎暮らしがレジャーになるほど都市化が進んだようだ。

1匹10万元のコオロギの話も載っている。強そうなコオロギのオスを育てれば、高く売れる。路上で1匹5元程度で売っているのを見ながら、自分は1匹200元以下のは扱わないと語る男性の話では、辛い唐辛子畑で捕まえるコオロギが最高級品で、うまく飼うと1500元くらいで売れる。昔は上海周辺でも採集できたが、住宅団地建設ブームでコオロギは住めなくなり、かなり郊外でないと採れなくなった。ナンヤン地方の農家は、コオロギ採りで1シーズンに1万元も稼ぐそうだ。1999年には「虫王」と名付けられて10万元で取り引きされたコオロギもいた。コオロギを戦わせる賭事は、唐時代から盛んだったようで、いまも、行われている。もちろん非合法だが、数千元から数万元、さらにもっと巨額の賭け金賭博も極秘裡に開催されるという。この国、なかなかしたたかで面白い。

ザルうどんで昼食。1時の空港バスで元は上海に向かった。バス停にある航空券売場で敦煌便のスケジュールを聞いて帰室。これからしばらく二人暮らし。

4時からセンターで打合会。代田主任から秋学期行事日程などの説明がある。18期生の修士論文課題決定への参与、17期生の修士論文審査、図書館予算（日本語文献分400万円）による選書など。9/29には、国家專家局主催の民族舞踊鑑賞会がある由。終了後、屋上で写真を撮ろうと思ったらドアが閉まっていた。バスで帰室。今日の青天は、昨日より霞が多い。

和食の残り物で夕食。

9 / 11 (木)

講義のレジュメ作りで散歩はなし。7:30のバスでセンターに。机の上に2通の封筒があるので開くと、1年生と2年生がくれた「教師の日」カード。この国では、9月10日が教師祭になっている。「師恩難忘」「老師、ニーハオマ」と印刷してあるカードに、綺麗な日本語のメッセージが書いてある。教室で感謝の言葉を述べてから、メッセージ文の不自然な箇所を指摘する。講義は、戦前日本社会の特質を、江戸時代から昭和戦前期までを概観しながら話す。バスで帰室。

李平先生に教わったうどん屋に行く。双楡樹郵便局前通りの半畝園で、炸醬面（12元）と雪菜肉絲面（10元）を注文。炸醬面は、しこしこしたウドンですこぶる美味。雪菜肉絲面は細い麺でスープがいまいち。2000年に上海の静安ホテルで食べて感激した面よりかなり劣る。超市で月餅（稻香村ブランド）と生のランブータンを買って帰宅。栗餡月餅は、@7.6元と高値だが、全栗羊羹のような餡で極めて美味。代田先生の話では、稻香村は新興の食品製造企業で、大三元のほうが老舗とのこと。

1:40のバスでセンターに行き、日本学総合講座に出席。単位になるので学生も大勢参加している。講師は郭連友センター副教授で、「私の吉田松陰論 中国との関連で」を講演。東北大学博士で、松陰全集などからの引用資料を読み上げながら、太平天国の情報を得てから松陰は海防論を捨てて民生論・民本論を中心主張とするようになったことを実証的に説いた。知らない分野で興味深かった。漢文を読み下したかたちの松陰の文章を、院生達が理解できるのか訊ねると、どうやら、まるで判らないらしい。現代日本語を勉強してきたのだから無理もない。日本の若者も判らないだろう。

この時期の松陰と末期の松陰の思想変化の理由、郭さんが松陰をテーマとする研究を続ける理由などを質問。康有為らが松陰の影響を受けていること、日中戦争中に南京の汪兆銘政府が松陰伝を刊行したこと、松陰の尊王論は天皇絶対論ではなく易姓革命論の影響を受けていることなど、新知識を得た。

講座終了後、徐主任・郭さんら中国教員とともにバスで長城の月見に出発。友誼賓館に寄って家族を乗せて、環状線から八達嶺高速を走って居庸関長城へ。かなり急峻な長城が続いている。最近作られたアミューズメント施設（宿泊・食堂・ホール・会議室・ボーリング・プール・カラオケなど）で会食。はじめてアヒルの頭の唐揚げを食べた。その勢いで、ローストチキンの頭の脳にもトライすると、これが意外に美味。小さなものだが味わいがある。アヒルとニワトリの分だけ頭が良くなったか？はたまた、彼らと同程度の脳になったのか？

食後、ホールでお茶を飲みながら月の出を待つ。8時すぎ、東から月が昇ってきた。霞がかかって朧月だ。長城は北西に連なるから、長城の上に月というわけにはいかないが、なかなかの風情。西安の月もかくやあらんかと、阿倍仲麻呂を想う。「はるかなる居庸関に出でし月かも」。

安着されて奥様と一緒に参加された濱先生、どのような句作をなさったか。

9 / 12 (金)

理工大学の市場に買いだし。大桃3個2.9元、小桃11個3元、枝豆1元。小桃は堅かったが、大桃はまあ柔らかくて美味しかった。枝豆も堅いが豆の味がある。おしなべて中国野菜は堅い、水分が少ない土地のせいかと、恵子の観察。

「日本人会だより」を送っていただいたので林さんに電話すると、葉先生が電話に出られた。暖かいお声の方で、お礼を申し上げ、改めてのご面会をお願いする。

昼食にカレーライスを試す。半畝園前の店。固形ルーを使った感じのあまり辛いカレーだった。客を見ると、やはり、若い人が好んでいるようだ。福神漬も付くが、ライスには問題がある。ビーフカレー17元、マッシュルームカレー16元。

スーパーに寄ると、もう月餅売場は片付けられていた。外では安売り。黒豚のロース塊を買う。ここでも黒豚は高級格付け品になっているようだ。

早めにセンターに行き、センター中方に借りた筆と持参の硯・墨汁で、製本の出来た『父と子が語る日本とアメリカ』稿本9冊の表紙にタイトルを墨書する。来週みんなに渡す予定。

4:30から陶徳民関西大学教授の講演「吉田松陰研究の新知見」を拝聴する。エール大学で新しい資料、松陰が下田監禁中にアメリカ医師に渡した板に書いた声明文を発見された話。従来は正文が見つからないままに伝聞的な英文・日文が伝えられていたが、陶先生の発見で、一部が修正された。松陰が、自分を「英雄」としている部分も新発見だが、はたして、

それが松蔭の本音かどうか議論を起こしているようだ。佐久間象山書簡で、浪人して困窮していた松蔭が西欧知識を学んで成果を挙げて帰参を可能にするという考えもあって密航を企てたことが分かるとの指摘は面白かった。志士国士イメージを個人的モチベーションの存在を明らかにして薄める効果がある。

陶先生を囲んで、巖先生、周先生（センター教授）、邵先生（北京外大副教授）、郭先生と清水副主任で会食。外大南の海鮮店「海暢園」。ガチョウの風乾し肉ははじめて。タウナギも久しぶりだった。談論風発、極めて有益かつ楽しかった。

巖先生は、上海の中国共産党第1回大会開催記念館の正面に巨大な娯楽施設が出来たことを話された。南開大学の周恩来立像が泰達ビルをにらむのと同じ構図だ。

若者達の開放的な愛情表現のことを話題にすると、ラブホテルのようなものがないので街なかやキャンパスでの二人連れの抱擁が目立つのではないかとのこと。大学生間の婚姻は認められていないが、最近少し変化が見られるようになった。しかし、某大学では、妊娠した女子学生とその相手を退学処分にしたという。学生の両親が不当な退学だと提訴して係争中とのこと。

9 / 13 (土)

早朝で人通りが少ないホテル前の路上で、客待ちのタクシー運転手達がトランプ博打をしている。1元札と10元札を賭けている。人民大学正門前を通り、附属中学の正門に来ると、自家用車が止まって男の子が降りた。課外活動に来た中学生らしいが、かなり肥満だ。栄養状態が改善した成果か？

双楡樹早市でキノコ2種、サツマイモ、トマトを買う。全部で5元。ヒラタケを炒めたが、ほぼ日本物と同じ。サツマイモを蒸かしたが、ぜんぜん味がない。見かけは紅赤風だが、甘味はなく、ホクホク感もなくややスジが舌に触る。焼き芋にもならないだろうし、まったくの調理用だ。

China Daily の一面トップは毒ガス問題。中国は早急な毒ガス処理を日本に求めている。2007年までに処理するという約束だが、今回のような被害が発生するようでは、対応を急ぐ必要がある。経費は膨大になるだろうが、人道問題だし、賠償放棄してくれた国への当然の義務的支出だ。

今回の毒ガス事故では、日本政府は例によって対応が後手後手になったが、中国政府もあまり厳しい姿勢はとらなかったのが、対応が遅れたふしがある。対日感情悪化を避けようとする中国政府の姿勢かもしれない。細菌兵器の石井部隊問題でも、現地調査をボランティア的に進めていた松村慶大教授らの活動を、ある時期には、歓迎しない姿勢を現地当局が示したことがあったようだ。人道問題という見地からだけでは処理できない課題だ。

歩いて大鐘寺に向かう。大きな鐘を本尊にした仏教寺院だったところで、今は博物館になっている。入場料@10元。1970年代後期に河北省で発掘された青銅の楽鐘（大小45個）があって、係の女性が童謡風のメロディを叩いてくれた。石製の大小の板が下がった楽器では第九合唱のメロディ。

一番奥に巨大な梵鐘が太い柱に支えられた梁に吊り下げた。表面と内面には経文が鑄られている。階段を登ると上から見る事が出来て、小銭を投げて穴に入れることができれば幸運に恵まれる。小銭は下で2元分を両替してくれる。これはパス。

伽藍の他の建物には、鐘の歴史的コレクションや鑄造法の説明などが展示されている。売店で絵はがきを購入。

門前は骨董の店が並ぶ。毛バッジの間に周総理のを見つけて買う。5元を恵子が値切って3元。さっそく、帽子に付ける。板門店バッジと周バッジが並んだ。

タクシーを拾って燕沙友誼商城に向かったが、地下鉄工事のために3環脇の道は大渋滞。日本に出稼にいったことがある運転手で、片言の日本語で会話。月収は3000元くらいという。こっちが3000元くらいかと聞いたので、そうだと言ったのかもしれない。呉で左官をしたようだ。45歳で、もう日本で左官の仕事は出来ないと言っていた。死別した奥さんと再婚した奥さんの子どもの二人子持ち。この場合は一人っ子政策の対象ではないらしい。

燕沙友誼商城はルフトハンザが創ったデパートで輸入品が揃っている。紙コーヒーフィルターの中型もあった。ガラス製品を見ると、ボヘミアン・カットが割安。欲しいと思っていたデキャンターとグラス（6個）のセットを1266円で購入（カード支払い）。地下でブランドィを見たが日本より高いのでやめて、チーズとオリーブを買って帰室。

遅い昼飯を、昨日恵子がつくったポークシチューとチーズで。

午睡後、共同利用室で「日本研究論集」の論文をコピー。畔上さんに頼んで抜き刷り風のコピーを作ってもらおう予定。

8:00、そろそろ月が出るかとビアガーデンに。ホテル特製のスタウトと燕京生、串焼き肉、炒面で46元。燕京生追加、エビ団子、小包子で16元。特製スタウトは、クセはないが少し薄い感じでもの足りない。

待つことしばし。3人組の生演奏。やがて十六夜過ぎの月。眺めながら帰室。

元から電話、上海は静安ホテル。

9 / 14 (日)

早起きして前門の旅游バスターミナルへ。7:00から8:00の間に雲居寺行きの游10が出るはず。前門のターミナルは何カ所もあって迷った。7:15に着いて10番に乗り込むがなかなか発車しない。30分毎かと思ったが、そうではなく、ようやく8:15ころ発車した。乗客が13人と少なかったので、客待ちしていたのかもしれない。往復@60元。

京石高速を走る。途中、廬溝橋が見える。琉璃河から降りて韓村河から先は道路が悪い。農村地帯を走って雲居寺に。山腹に伽藍が縦長に配置されていて、ルシャナ仏、阿弥陀仏、薬師如来、千手観音などを祭る拝殿があり、両翼には北塔と南塔址がある。南塔址の地下には石に刻んだ経典が納められた蔵「石経地宮」がある。ここは寺院で僧侶が修行している。拝観の人々のなかには、線香を捧げて熱心に祈る人も多い。成功・健康・知恵など目的毎の願文を書いた細長い赤布を買って名前を書き入れ、堂内のひもに結びつける絵馬風のものもある。

寺は1942年に戦火に焼かれたと書いてある。日本軍の侵略の跡だ。中国の旅では、思いがけないところで日本の加害証拠に出会う。1時間でバスに戻るが、1人帰ってこないのが15分遅れて発車。運転手も客も、遅れた客をそしる様子はなく、当人も悪びれもしない。のんびりした気質の人たちだ。

十渡に向かう。拒馬河の片側に切り立った絶壁風の山が続く場所に入る。一渡から十渡までの地名が上流に向かって並んでいる。水深は浅い河だが川幅は40mくらいのところがあり、欄干のない水面すれすれの沈水橋が6, 7箇所にかかっている。道は河の左や右を走る。岩の理目は水平で褶曲はほとんどない。長江の三峡にすこし似ている。

12:00ころ、六渡あたりで仙峰谷に寄って13:15まで留まる。水の涸れた谷川を遡ると、巨岩・奇岩・淵が連なり、両側の切り立つ山が迫ってくる。青龍潭と名付けられた滝壺跡で道は途絶え引き返す。三峡下りだと本流から支流に入る神農潭のような位置づけになる谷だ。なかなか風情があるが、水が枯れているのは残念。またさっきの客が時間に遅れた。今度は皆から批判される。

十渡に向かう。「十渡拒馬楽園」、レジャーランドだ。対岸の山の中腹までゴンドラ（2人乗りのキャビン）がかかり、渓谷の上には、バンジージャンプ台が2基ある。ロープ伝いに対岸から河の上を滑り降りる人間飛行もある。河には竹船や脚こぎボート、カヤック、モーターボート。乗馬や運動公園、遊具場もある。

道沿いに並ぶ食堂で昼食。バラ肉炒め、ニガウリと豚肉炒め、ナス炒め、ビールで52元。田舎料理だがけっこう美味しく食べた。ゴンドラに5分くらい乗って降りると、つぎはきつい石段の登り。情人台という展望台まで頑張る。妙義山に似た起伏の激しい山なみが連なっているのがよく見える。展望台の下に石仏があるというので行ってみると、人型をした自然石が安置されていたのでガッカリ。バンジージャンプは1基だけが営業していたが、ほぼひっきりなしにジャンパーが飛んでいた。恋人たちが二人で抱き合って飛ぶのも流行っている。きつときずなは強くなることだろう。

出発は 17:30 だが、夕方になると人影は少なく、肌寒くもなったので早めにバスに戻る。皆さんも早めに戻って、バスは 5 時前に発車。途中の韓村河あたりには庭園用奇岩が大量に陳列されているから、岩石の産地らしい。韓村河あたりは、工業団地としての開発が大規模に進められている。道沿いには果物・野菜を売る露店がぼつぼつと並ぶ。柿も売っているが、十渡で見た感じでは熟すと一足飛びに日本の熟柿のように柔らかくなる種類のようだ。ヘタに近い部分にくびれの入る独特の形状だ。

長椿街でバスを降りて、「郷老坎」で夕食。成都料理だが辛いものを選んだ。手捌鶏は、味付け蒸し鶏を手で割いた料理で美味しかった。野菜炒めと三鮮湯、坦々面、白飯、ビールで 70 元。坦々面は緑色の麺でこれも美味だった。口の長い薬缶で遠くから茶碗にお湯を注ぐ方式は成都的だ。

9 / 15 (月)

人民大学に散歩。正門を入れて驚いた。3月に「3つの代表を实践して世界の一流校になろう」と書いた幕がかかっていたロータリーがなくなって、幅広歩道が直通し、大きな照明付き噴水のある円形広場もできている。まだ両側の植え込みは完成しておらず、早朝から芝生を植える労働者が働きはじめていた。かなり費用がかかったと思われる改造だ。日本の大学ならそれだけ予算があるなら研究施設に回せと言う声が出て、この改造は実現しないだろう。各地の大学の新築・改造ラッシュの資金はどこから出るのだろう。南開大学では、銀行からの借金と聞いたが、返済出きるのだろうか心配だ。経済成長が続くうちは良からうが、低成長になれば不良債権の山ができそうだ。

3月に驚かされた孔子像を確認に行くと図書館前に無い。開館を待つ学生に話しかけたが英語が通じない。英語テキストを音読している学生も、会話は苦手らしく、結局、筆談にすると場所が判った。思い出したが、学生の閲覧棟の奥に新しい図書館棟があってその前に孔子像がある。像の寄贈者は、香港孔教学院の温院長だ。タイトルには中国の偉大な思想家教育家とある。中国共産党の孔子評価はすっかり変わったらしい。

新しい西門から出て、杭州包子(10個 2.5元)を買って帰室。

午前中、恵子はひとりで城郷超市に買い物。美味しかった湯葉・タケノコ・青大豆の煮物などを買ってくる。お総菜風の食品はいろいろあるが、得体が知れないものが多いので、トライアルをしているところ。

昼食はホットケーキ。天ぷら用などの普通粉の小袋がなく、5kg袋を買ったので、その消化活動の一環。どことなく中国の香りがするパンケーキになった。日本の小麦粉と少し違う感じだ。恵子は、きめが粗いという。

昨日の遠足疲れでうたた寝を間に挟みながら明日の講義の準備をした。網野さんの『日本社会の歴史』(岩波新書)の上巻を教科書にして日本古代史を1回で話そうという試みだが、なかなか難しい。共同体論として筋を通してみようと思うが、アジア的共同体の内部変化は、そう簡単には理論化できないし、事実関係も不明な部分が多い。公地公民制を、アジア的共同体の存在を前提にした土地法と説明するのは易しいが、その崩壊過程が、アジア的共同体のどのような変質と関係しているかは簡単ではない。石井寛治流に世帯共同体の成長と説くのも一つの考え方だが、世帯共同体を共同体論にどのように位置づけるかという問題が残る。

夕方、双安商場まへのスーパーにワインを仕入れに行く。ダイナスティ、長城、豊収の3銘柄の赤(いずれもカベルネ・ソービニオン種)を55元から78元で買う。粒あんと白玉粉らしいものも。粉類は、種類が豊富だが、白玉粉とは書いていないから選ぶのが難しい。店員に粘大米粉と書いて見せたら、糯米製品を出してくれた。丘比沙拉醬 = キューピーマヨネーズ、燻製肩ロース、アサリらしき貝なども。

ディキャンター初使いに、最高値の豊収1995年ものを入れる。あっさりし過ぎのカベルネだが、まあまあ。トンカツで夕食。

9 / 16 (火)

早めにセンターに出かけて図書館で古代史関係の図録を探す。かなり古いものしかなかっ

たが帯出して2年院生講義で見せる。日本史は、センター受験に際して勉強した程度で、知識は深くないようなので、ごく初歩的に話す。こっちも専門的な話は出来ないのだからちょうどいい。奴隷制の時代だったのかという質問には、一般的・総体的奴隷制といえるが、貢納制という用語を使っていると答える。

濱先生と一緒に帰室。電動カートの台湾製バッテリー不調で日本製を取り寄せる由。トラブルも公刊予定の滞在記の良いトピックと言っておられる。

いそいで昼食をとり、1:40の迎え車でセンターへ。2年院生の修士論文について相談に乗るが、テーマが社会学的で、参考文献については皆目分らない。「初期高齢者のパーソナル・ネットワーク」「高等教育機関進学の不平等要因」のふたつについて3時間近くコメント。残る2人は来週にする。新しい建物のコンピュータ関連が未完成のために、参考文献が検索できないのははなはだ不都合だ。少し手助けをすることにした。

5:00、バスで出発。宿舎に回って先生・家族を乗せて、騰格里塔拉劇院酒楼へ。海淀区万寿路にあるモンゴル料理と舞踊の店。小劇場にテーブルが並び、飲食物はビュッフェ。北京外大の学長が歓迎の挨拶。20数カ国60人を越える外国人教師とその家族が招待され、教育部、北京公安局などの来賓も見えている。

羊の丸焼きをはじめ、いろいろな料理がならば部屋から皿を運ぶ。生ビールと葡萄酒1本を取ってくる。羊と豚の焼いた皮も取ってきて賞味した。羊はかなり大きく、焼くのに時間はかかったようで、皮は堅い煎餅状だった。ハム状の塊から切り出した豚皮はパリパリではなかった。

専属ダンサーによるモンゴル舞踊は絢爛で美しいが、かなり現代風にアレンジしてあるようで、伝統芸能という感じはしなかった。

陳学長と高齢の外国人教授の席に挨拶に伺う。学長挨拶の中で、外大の外国語教育の基礎をつくった教授達という紹介があった女性教授の皆さんで、それぞれに風格がある。

バスで帰室、熟睡。

9/17(水)

朝から雨。降り込められて、明日の講義準備をしてから、10月の中華日本学会報告のレジュメ素案を作った。

China Dailyのトップ記事は、フォーブスが人民元のフロートは望ましくないと発言した話。このところこの話題で持ちきりだ。毛沢東の珍しい写真が載っていた。1945年8月27日に米軍のジープにP.ハーレー駐中米大使と乗っている。重慶での蒋介石との会談のために延安から出かける時の写真だ。蒋介石側代表の張將軍と米大使が延安まで迎えにきたようだ。90歳になった黄華元外相の写真集が出版された記事の写真で黄華もジープの後ろに乗っている。

都市の水不足と河川汚染問題の記事がある。北京は汚水の半分を未処理のまま河川に流しているのが現状で、改善のために、2008年までに30の汚水処理施設を建設して、汚水の90%を処理する予定。上海では、2010年までに処理率を80%まで高める計画をつくっている。また、672都市のうちで400市以上が水不足で、160市で給水制限が行われている。90%以上の表面水と50%以上の地下水が劣化しつつあり、大連・青島・寧波など沿岸都市では地下水位が下がって、海水の浸入で地下水が汚染されているという。

急速な都市化にともなうインフラ整備の遅れがこの国の大きな問題だ。水不足は、南水北通でも根本的な解決にはならないだろう。

都市ゴミ問題はどうなっているのだろう。友誼賓館前の道路には、紙類・缶ビン類をリサイクル回収するゴミ箱が置いてあるが、家庭ゴミを分別して出している様子はない。今後の調査課題だ。

夕方、雨が上がったので双安商場前の超市に夕食の買い物に行く。コンビーフのようなもの、昆布サラダ、卵、ニガウリ、長ネギ、青菜、冷凍ワンタン、豆腐、白いパートレット、人参果で35.6元。人参果は中が空洞で瓜に似た5cmくらいの長い球形の果物、種子がないのが不思議だ。

道で杖をついた若者が物乞いをしている。手にはたぶん「残疾人証」と書かれたものを持っていて。障害者手帳のようなものだろうが、これがあれば物乞いが認められるのか？ 障害者の物乞いはときどき見かけるが、この国の福祉制度はどうなっているのか。今日の若者にも老婦人が小紙幣を渡して話しかけていたから、物乞いの収入も案外あるのかもかもしれない。コナン・ドイルの短編にも物乞いで稼ぐクラークの話があったように。

東大出版会の池田さんからメール。まだ原稿が集まっていないとのこと、ちょっと心配だが、皆さんの精進に期待するしかない。

夜、BSで「バラの名前」を見る。エーコの原作は読んでいないが、面白かった。シヨーン・コネリーは歳取ってからの方が良い役者になった。

9/18(木)

講義の前に、今日は何の日か訊ねると、Cさん1人だけが満州侵略の日と知っていた。若い人への歴史教育が徹底しているわけでもなさそうだ。戦後の政治・社会改革がテーマの授業で、近代日本が戦争を続けた理由と最後に敗北した理由をはなして、憲法改正・民法改正などの説明をした。帝国憲法と新憲法の比較はみな勉強していた。

基本的人権を自由権・社会権・参政権・受益権の4つと説明したのにたいして、人間にとってどれが一番重要な権利かという質問。自由権が基本で、近代初期からそれが形成され、20世紀に入って社会権が承認され、参政権と受益権は前2者を保証するための権利だと説明した。もちろん、中国の現状をふまえての質問だから、さらに、自由権と社会権の二者択一という状況もあり得るが、たとえ個人の立場からは自由権を優先させたくても、社会の立場からは社会権特に生存権を優先させる選択肢もありうると発言した。べつに中国政府に迎合したわけではない。人類史の危機的現状を憂慮すると、人類の生存を Garantieren するために個人の自由を規制することは必要だと考えているからのこと。これは、ファシズムに繋がる可能性のあるかなり危険な発想とは思いますが、自由を守って人類が破滅するという未来図は滑稽至極だ。

日本の憲法改正の可能性は？ 自殺の自由はあるのか？ せん民差別はまだあるのか？ など、なかなか難しい質問が続いて、時間をオーバーしてしまった。

午後、代田先生の日本学総合講座があるが、日本との電話連絡のため欠席。新聞を読む。人民元問題では、中国の銀行の不良債権比率は以前の50%超から最近20%前後に減りはしたものの、なお極めて脆弱だから、元の切り上げ、変動相場制移行は時期尚早との論調。中国東北3省は、かつて重工業基地として国家資金が集中的に投入され、それぞれの省は、北京、上海、天津に次ぐGDP(一人当たり)を誇っていたが、現在では、遼寧省が8位、黒竜江省が10位、吉林省が14位に低迷している。2002年に1990年代水準の技術を装備しているのは工業企業中で15%にすぎず、設備の老朽化が目立っている。国営企業が中心で、市場経済への対応が遅れているためだ。まだ企業は国家の政策を期待しているが、自力で改革を進めるしか道はないとの論調もある。

社会面では、アルツハイマー病が取り上げられていた。平均寿命の伸びと一人っ子政策で高齢人口は増え続けているが、85歳以上老人の3分の1はアルツハイマー症と推定される。初期の治療が有効だが、一般的な老人ボケと見なされて発見される可能性が低い。3世代家族が減りつつあるものの、まだ家族のケアを受ける老人が多く、加齢に伴うボケと判断する家族が多い。アルツハイマー症の中国語が、個人の尊厳を傷つける響きを持つので、当人も家族もアルツハイマーと認定されるのを嫌う傾向もある。用語を変えるのも一つの案だとのこと。

アルツハイマー症はなんというのか日中辞典で調べたが出ていない。フロントで聞いてみたが知らない。China Dailyの中国語版はない。鄧小平が巾白(1字)金森綜合症だったと教えてくれたが、これはパーキンソン氏病だ。

夕食は餃子大王。守屋先生ご推薦の店で、美味しいと評価された豚肉トマト餃子と、三鮮餃子、牛肉しいたけ餃子を2両(8~10個)ずつ頼む。前ふたつは焼き餃子であとのひとつは茹で餃子で注文。なかなかの味だった。生ビール2杯で、合計32.2元。半畝園前のパ

ン屋で、月餅を買う。他では売っていなくなったもので、ここも売れ残りを@2円で売っている。パンは若者達のお気に入りらしく、この店も繁盛している。串刺しのパンもあってさすが中国。

当代商城をひやかしに行く。狭い道の歩道には車が並んで駐車しているので、人間は車道を歩く。燕山飯店のそばの果物屋で蟠桃を2つ4元で購入。平べったい桃だ。当代商城は中級のデパートという感じで、ルフトハンザの商城にくらべると低い価格の商品が並んでいる。パンダの両面刺繍の4折の飾り物は良かった。

帰路、3区分のゴミ箱の蓋が開いているのでのぞくと、中には3個の箱があるが中身は空。蓋をあけて紙類を大きな袋に入れて自転車で持っていく人がいる。私的な回収・リサイクルが行われるらしい。

夜、楊先生がくれた白酒「劉伶酔」を開ける。度数42%で、なかなか美味しい白酒だ。

9 / 19 (金)

朝、恵子と双榆樹早市に買い物。キャベツ(小2元)、桃(大2個7.9元)、ほーれん草(1.5元)、枝豆(1.5元)、トマト(4個2元)、いんげん(2元)、カリフラワー(小0.7元)、なつめ(1元)、豆乳(0.5元)、パン屋でトースト用食パン(厚切り4枚7.9元)。生なつめははじめて嚙ったが、林檎と梨のアイノコのような味。トマトはそろそろシーズンが終わる味だ。トーストパンは甘くてダメ。まだ朝食用パンが発見できない。

新聞は、1面下段に「日本の戦争責任はまだ歴史の頁に残っている」との見出しで、昨日上海で開かれた日本の侵略責任シンポジウムの記事を載せた。昨日今日の紙面で9・18関連はこれだけで、China Dailyを見るかぎりでは、歴史問題を追求する姿勢は弱い感じだ。

ほかには、不動産ブームが加熱していることへの警戒記事、政府の開発規制強化の記事、炭鉱事故の記事など。今年、9月17日までに炭鉱事故の死者が4150人とは驚いた。事故件数は2452で、小規模の炭鉱での事故が多いようだ。地方政府の監督責任を問う記事もあり、去年6月に山西省で起こった事故では、事故隠しをした役人と炭鉱関係者が裁判で有罪になったという。

昼食は宏状元まで歩いてお粥。守屋先生ご推薦の店で、農業科学院南門前通りにある。入ると丁度昼時で、満員。数字の書いてある札をもらって少し待ってからテーブルへ。効用が書いてある菜单で、守屋情報にあったお勧め品を探しながら、粥2種、手抓餅、常家拌菜、煎餃を注文。菠菜鶏茸粥はほうれん草と何か白い細片のお粥。状元粥は、刻んだクルミやアーモンドなどが入った少し甘い白粥。手抓餅は、2cm巾に巻かれた塩味の中国パイ。常家拌菜は、白菜の千切りと細い乾し豆腐のサラダ。煎餃は、肉野菜餡をパイ皮でつつんで揚げたイチジク型のもの。合計29円で、美味しかった。

池内先生ご推薦の五塔寺まで歩く。大慧寺路を左折した小路は古い感じの町でさまざまな小さな店が並んでいる。米豆店で、ポークビーンズ用のウズラ豆を買う(2.5元)。近くの鉄鋼研究院の住宅もあるが、胡同のような家並みでトイレは外の共用。用をたしにはいると、床にいくつか穴があって境はないのが大用。古い北京の下級住居が残っている一帯だ。

いずれは取り壊されるのだろう。

五塔寺らしい塔は見えるが門はまだ遠い。動物園の北側の川に出た。象の音が聞こえる。北京石刻芸術博物館がある。門で訊ねるとここが五塔寺だった。10元払って入ると、回廊に墓蓋・碑などの石文がはめ込まれ、周りの建物には北京の石像・石碑・石仏などの展示、庭に大小の石碑、そして中央に金剛宝座があり、その向かいに塔の基壇遺跡。

金剛宝座は周りの壁に座仏のレリーフを5段重ねで数多く並べた石像建物の上に大小5つの石塔が建つ建造物。座仏のレリーフはほぼ全部が原型のままで破壊されていない。池内先生の話では、文化大革命中にはほとんどの寺院が紅衛兵に攻撃されたがこの五塔寺だけは原型を留めた珍しいケースとのことだった。李平さんに尋ねると、紅衛兵が見つけた損なっていたのだろうと笑っていた。「地球の歩き方 北京」にも「北京ウォーカー」最新号の古寺案内にも紹介されていない旧寺で、興味深かった。

歩き疲れてタクシーで帰宅。

枝豆、インゲン煮物、ニガウリと鶏炒め、ほーれん草のごまよごし、ノリで夕食。「誰がために鐘は鳴る」を観る。バーグマンが若い。ストックホルムで買った18歳ころのプロマイドに近い。現在使われていない用語を使ったとのお断りが出たが、「ジブシー」のことか。

9 / 20 (土)

ホテル北門を出ると三環の車道分離帯の植樹が始まるところだった。小灌木を満載したトラックと20人ほどの労働者を乗せたトラックが着いて、道路に交通標識を並べはじめた。今は土があるだけの分離帯は、今日中に緑の分離帯に変わることだろう。人海作戦だから、歩道舗装なども速い。昨日まで溝が掘られドロだらけだった歩道が、次の日には、きれいなコンクリートブロック舗装に変わっていることもしばしばだ。

人民大学西門から構内を散歩。北西側にあった古い建物を壊した後には、経済系と法学系の合同棟が新築中だ。財政経済学院は、今年から、金融・保険を専攻する学科を設けたらしく、正門には新入学生歓迎の幕が張られている。いま一番必要な学科だ。

構内のガラス付き掲示板には、大学の書画クラブの作品が展示されている。画材は、奔馬・鷲・虎、牛に乗る児童、山水・花鳥などかなり古典的なものが多い。書体は各種で、なかに日清戦争地図を見ての感想を表現した自作の詩もあった。多分、どれほどの村々が灰燼に帰したのだらうというような内容だ。以前に見た社会主義礼賛文はなかった。

正門近くの大改修で白楊の並木道ができたが、既存の白楊に続いてコンクリート枠だけの植栽予定箇所が並んでいる。既存のはかなりの大木だが、あのクラスの樹を植えるつもりなのだろうか。

ホテル本館でATMから引き出す。昨日は円が高かったようなので。引きだし限度は2500円で、手数料は1回2元。

インゲン、トマト、パン、コーヒーの朝食。コーヒー豆はかなり割高なので、持参したストックが無くなった時の対策を考える必要がある。

新聞1面トップは今日も人民元問題。アジア開銀の担当者が、まだ流動性回復の条件は半分程度しか満たされていないと発言したことを大きく報道している。朝陽公園の池で水と光のショーをやっているようだ。今年は、金王朝が北京を首都としてから850年なので、いろいろなイベントがある。

カメラの電池を買いに行ったが、単3が@2.5~7.5元と高め。充電式にしようかと探したが、1.2vはあるが1.5vのは無い。ちょっと不思議だ。@2.5元のを買ったがアルカリとは書いてないから長持ちはしそうにない。たしかに電池は日本から持ってくるべきだった。

炒飯で昼食。午睡後、センターへ。新楼開幕記念講演会がある。開幕式は、陳学長、宮家公使、呉教育部国際交流処長、若松国際交流基金常務理事の挨拶。公使ははじめは中国語、次が英語と日本語で挨拶。ちょっと不思議。センターの院生はあまり英語は使わないのだから。

講演は、山折哲雄国際日本文化センター所長と王曉秋北京大学歴史系教授。山折さんは、「宗教と戦争 非暴力への道と日本」を講演。3年先輩だけあって、話は上手。体験的宗教論から説きはじめて、竹内好の毛沢東論、トインビーの明治維新無血革命論、ハンチントンの文明の衝突論、ネルソン・マンデラによるガンジー非暴力主義の継承、さらには、天安門事件の際の学生の非暴力行為、そして、キング牧師の夢が美空ひばりの東京キッドのポケットの夢と通底する話。平安時代の350年の平和、徳川時代の250年の平和を、日本の神仏共存、祭政一致（とは語らなかつたが）で説明する山折仮説の提起。

日本での話ならこれでも良い。ここ中国で、日本が平和伝統国家と語っても、説得力はないことが判らないあたりが、山折さんの限界だ。

王教授は「梁啓超と近代中日文化交流」を講演。1898年に、戊戌変法の失敗後、日本に亡命した中国知識人の歩みを、淡々と史実に沿って語る。はじめてマルクスを中国に紹介したのも梁だと。英語を解しない梁は、日本語に翻訳された西洋思想を学び、それを中国に伝えたようだ。日本で親交を結んだ日本人の名前を挙げながらの講演。この徹底した実証

主義が、北京大学の歴史学の伝統かと感心させられた。

帰室してダイナスティのシャンペンで乾杯。ガス圧が低いがドライタイプで結構飲める。ポークビーンズの夕食。きつめのスモークのベーコンがとても良い味を出した。

虫の音が聞こえるので外に出ると、代田・清水両先生がお帰り。コオロギとクサヒバリらしい鳴き声だ。先日、クツワムシの遺体をみたが、今夜は鳴いていない。秋の夜長だが、早寝。

9 / 21 (日)

悠野くん・お母さんと4人で双楡樹早市へ買出し。相変わらずの人出。クツワムシを小さな籠に入れて売っている。訊くと1匹2元。はじめての野菜を1本買う。太めの茎の上部に細長い葉がついたもので1.5元。サラダにしたら歯切れが良くて美味しい。白肌のパトレットは大3個で5.7元。まだ堅くて酸味が強いが美味。トマト、インゲン、ほーれん草、栗を買う。

悠野くんの日本人学校は小中合わせて400人を越える規模。小学生でも英語と中国語が週1回ある。昨日は運動会だったとのこと。2学期には修学旅行で小学生は上海に行く。中学1年生は大連旅行。

頤和園行きのバスに乗る(@1元)。頤和園正門は大混雑。入園せずに、船着き場まで南に歩く。東側には釣り堀があって、みんなが糸を垂れている。広大な釣り遊園地だ。道を口バや馬がレンガを積んで運んでくる。正門近くが再開発中だから、大量にレンガが必要のようだ。朝市に西瓜や桃を運んでくる馬車が、日中はレンガ運びをしているのだろう。

南門を過ぎたところに船乗り場があった。昼食をとったが、なにもない。やむを得ず、瓶の紅茶(@4元)と焼き芋(中、2.5元)で済ます。焼き芋はひどい味だ。ここの河でも釣り人が多い。ときに釣れている。待つことしばし、船が来た。

昆明湖から下る船の旅。先日見たよりも大きい船で、下り客は12人ほど。料金は@40元。釣り人たちの浮きを揺らしながら船は進む。途中ですれちがう船には、沢山の客が乗っている。高層アパート群を見たり、シャングリラホテル近くで第3環状線をくぐったりしていると、両側が公園のようなところに入る。ほどなく紫竹院波止場に着く。ここで少し歩いて船を乗り換える。小さな船だが、川幅も狭い。後退しながら少し広いところでUターンして進みはじめる。やがて左に五塔寺の門を眺めながら進む。水性植物を発泡スチロールに植えたものを牽く船が、先を妨げるが、辛抱強く操船して追い越す。水路が拡がって、池のようなところが終点。近くに西直門駅が見える。

上陸して北京フィルハーモニー・オーケストラのホールの前を歩いて大きな道に出た。右に歩くと北京展覧館では国際書籍祭。さらに歩くと動物園。このあたりは、2000年に来たときには小さい飲食店や土産物店とバスの発着所が乱雑に並んでいたところだ。いまや、実に綺麗になっている。中国船舶のビルが見える。カルフルに入るとすごい混雑。充電池はやはり1.2Vしかない。1.5V 6本入り10元のを2パック買う。花王のシャンプー(6.9元)、バゲット(2元)、丸い中国サラミ(2個入り7元)、ソーセージ(5元)、挽肉(5元)、エビ(14.06元)、ザボン(2.28元)、ニンジン(2.95元)、牛乳(9.1元)、鴨胸肉燻製(6.8元)、香菇(3.92元)。

珍しい茸を買ったつもりの香菇は椎茸のことだった。

枝豆とサラミでワイン。夕飯は、エビ、さつま芋、ニンジン、タマネギ、香菇、インゲンの天麩羅と栗ご飯。ダイナスティの「金王朝」は、ほどほどのレベルだ。

易先生に電話すると、29日に院生に話してほしいとのこと。9:45に人民大正門で待ち合わせることにした。BS2で武蔵の巖流島決闘を見る。

9 / 22 (月)

朝は双楡樹早市にジャガイモ、タマネギ、ナスを買出しに行く。往復約1時間の散歩になる。ホテル前の広場でよく揚がっていたペンギン型の凧が、ビルの玄関屋根に引っ掛かっている。片側が高いビルだから、風が乱れるのだろう。

畔上さんに教わった旅行社に電話で敦煌行きの手配を頼む。10月1、2日は満席なので9

月 30 日午後の飛行機を予約。

9:30 の車でセンターに行く。2 年生の修士論文用参考文献をアマゾン・ジャパンで検索。まだ院生用の IT 設備が出来ていないので、すこし手伝うことにしたわけ。一時帰国した守屋先生が日・中辞典、会話編が入っているポケット電子辞典を買ってきてくださった。これからの旅に役立つことを期待する。

帰宅して天麩羅うどんで昼食。1:40 の車でセンターへ戻る。2 年生 2 人の修士論文の相談に乗る。専門外なので、体験論、一般論的なコメント。終わってから宋先生と立ち話で、相談経過を報告。遼寧大学と一緒に行く打ち合わせもする。

夕食は鴨燻製、ソーセージ、ほうれん草のおひたし、栗ご飯。ダイナスティのカベルネを開けるが、やはり値段に比例して味は落ちていく。60 元あたりが限界かもしれない。

新聞は、G7 蔵相中央銀行総裁会議の元問題関与をほとんど無視している。1 面トップは新聞・出版物の取扱を国営企業以外の民間企業にも認めるといった記事。言論の自由への動きのようだが、その意味するところはあまりよく判らない。大事件ではあるらしい。吉林省ではシベリア虎が動物園から逃げて人に怪我をさせた。絶滅の危機にさらされた虎が、人を危機にさらすと見出し。中国の野生のシベリア虎は 20 頭以下と推定されているようだ。ちょっと少なすぎると思うが、そうなのかもしれない。

WTO 加盟が、中国の女性の地位を低下させているという記事は興味深い。市場の原理が働くと、女性は低賃金の職場に押しやられるようだ。政府の対応を求める記事だ。

夜は雷雨。

9 / 2 3 (火)

朝、農業科学院を通り抜けてお粥店の前の道を十字路で左折、第 3 環状線に出て左折して帰ってきた。ここらは公園がないので、鳥かごを持った人たちは、道沿いの樹木や塀にかごを吊して鳥たちを鳴かせている。

朝刊は、人民元を切上げ論への中国外国為替管理局スポークスマンの反駁をトップに報道。天津市の水不足への対応として、山東省 Weishan ゲートから放水を開始した記事。Xiaolangdi 貯水池に貯められていた黄河の水は、580km を流れ下って全国で一番水不足に悩む天津市を給水する。天津市は、水道料金の引き上げ、給水制限、処理水利用などで、水消費量（1 日当たり）を一時的に 220 万立方米から 150 万立方米まで引き下げたが、なお水不足だという。

次は全国労働組合会議第 14 回大会開催の記事。労働組合といえば映画鑑賞券を配る組織としか考えられていなかったが、市場経済の時代には、労働者の権利を守る組織に生まれ変わる必要があるとの主張。下部労働組合の数は、1998 年の 51 万から今年は 170 万に増え、組合加盟者数は、100 万以下から 1 億 3400 万人に増えた。組合幹部が企業から給料をもらっている現状では、幹部が中立的になる傾向がある点の改善も提案されている。労働組合会議の議長が、「労働組合は労働者の権利と利益を擁護することを第 1 の課題にしなければいけない」と語ったというから、いささか恐れ入る。

9:30 の車でセンターに。2 年生に日本の中世社会を話す。天皇 = 貴族権力と武士権力のせめぎ合いのなかで、古代権力が衰退する過程を説明。日本の天皇制はなぜ長く続いてきたかの質問。侵略など外部からの天皇否定の可能性が元寇や占領期にはあったが実現しなかったこと、内部から天皇を否定する可能性は将門の東国立国の場合などにはありはしたが、天皇を否定する正統な論理は日本共産党を除くと形成されなかったことが原因と答える。易姓革命の伝統からすると、日本天皇制は理解しにくいのもかもしれない。

帰宅してソーメンの昼食。農業科学院前からバスで西直門へ出て、地下鉄で鼓楼外駅へ。2000 年の時、インゲン入りの美味しい包子を食べた店はまだあったが、昼過ぎのせいかわり包子は作っていなかった。竹園賓館もその付近もほぼ前の姿のまま。このあたりの胡同は、再開発はされていない。3 つの胡同の合同掲示板を見ると、合計で、住居戸数は 950、人口は 2438 人、うち 60 歳以上は 409 人、残疾人は 18 人。1 戸当たり人数が少ないのは、単婚一人っ子家庭のためだろう。家の前の椅子や車椅子に座る老人が目立つ割には、意外に

老齡化は進んでいないようだ。

鐘楼にまず登る (@10 元)。恵子が数えたところでは 59 段の急な階段。大きな鐘がある。大鐘寺の釣り鐘より大きいと書いてあった。胡同を上から見下ろせるがかなり複雑な家並みでどこが道か家の境か見当が付かない。次に鼓楼 (@20 元) の急階段に挑戦。段数はこっちの方がすこし多い。3 人による太鼓の実演。鼓譜があつて曲名が付いている。鼓楼からの見晴らしは素晴らしい。景山、北海公園と白塔、? 門などが見える。外人グループを連れてきたガイドが、なぜか 3 つの代表のことを説明し始めた。中南海を示しながらの説明だが、ちょっと可笑しかった。

歩いて後海へ出て湖畔でビール。青島中瓶 20 元は高い。隣のアメリカ人が我々 2 人の写真を撮ってくれた。夫妻と話す 7 月に日本を沖縄から北海道まで旅したようだ。湖で泳いでいる連中がいるので驚くと、彼は、冬でも泳いでいるという。どうやら中国駐在の人らしい。

通りに出て盆栽奇岩園を覗く。古木ですごいのがあがるが、作り方は日本のような繊細さを感じさせない。角の店で扇を発見、入ると糸巻きや竹ヒゴなども売っている。糸巻きと糸 1000m、竹・プラスチックのヒゴ・軸、絹布を購入。130 元を恵子が 85 元までまけさせた。土産物屋風で少し高かったかもしれないが、扇専門店を見たのは初めてだったのでここで買った。六角扇を作る予定。

タクシーで紅橋市場を目指す。目当ては、地下の上海蟹。ところが渋滞でのろのろ。着いたときは 6 時を過ぎて地下市場は閉店。仕方なくバスで動物園へ (空調車で @5 元)。かなり裏道を通りながら走るの街並みを見るには面白い。動物園から歩いてカルフルへ。上海蟹はここにはなく、あきらめて蓮の葉に包んだ鶏 (25 元) 缶入りレギュラー・コーヒー 2 種、フランスパンを買ってタクシーで帰宅。コーヒーは 280 g 30 元前後だから、スターバックスの半値だ。鶏は美味しかった。同じ鶏でもいろいろな味に仕立てる料理法には全く感心する。

今日は、恵子は、和栗先生達の仕立服作りを見学するはずだったが、途中で時間切れになったので失礼してしまった。

9 / 2 4 (水)

朝、100 元札以外の有り金 3.4 元を持って双榆樹早市に。柿を売っていたので三個買うと、2.4 元。残り 1 元で枝豆を買って帰る。柿は、小さな熟柿でなく、大きめのくびれがひとつ入っているもので、花落ちが少し黄色くなっている程度の青柿だが、柔らかい食感で、日本の平田種なし柿に似た味だ。枝豆は美味しい。

午前中は雷雨になった。講義レジュメを作る。国慶節の休日振り替えて 28 日の日曜日にも授業があるので少し忙しい。元が知らせてくれた本を送ってくれた方々に葉書とメールの礼状を出す。航空便で @4.2 元。

新聞は、トップが SCO メンバー間で自由貿易圏をつくる提案を温首相がした記事。SCO は Shanghai Co-operation Organization で、ロシア・カザフスタン・タジキスタン・ウズベキスタン・キルギス・中国の 6 カ国で構成する経済協力組織。中国の多角的な経済外交の一面だ。毒ガス問題での日本政府の対応を批判する記事もある。中国は国としては賠償請求権を放棄したが個人に対する損害の賠償請求権まで放棄したわけではないとの論調。再開発で住宅を壊された農民が、北京に出てきて焼身自殺を凶った記事もある。一命は取りとめたようだ。再開発の強行やそれに伴う汚職問題が人民の不満のタネになっていると指摘。王府井開発で当時の北京市長が私腹を肥やして処刑された話は有名だが、この手の話は限りなくあるのだろう。

恵子が理工大市場に買い出しに行った。ナン風の焼き餅はいける。冷凍餃子と昨夜の鶏ガラスープの水餃子は美味。鶏とニガウリの炒めなどで昼食。また降りかかったが、研究会があるのでセンターに出かける。タクシーに行く先を告げる中国語が通じた。

研究会報告は集中講義に見えた吉野耕作東大教授の『「英語化」するアジアの高等教育』。マレーシアで欧米大学との提携による twinning つまり、2 (1) 年間マレーシアで学びあ

との1(2)年間を海外留学して学位を取るシステムが発展しているが、文化ナショナリズムの観点からは、問題が多いという報告。マレーシアの private college に入学してから欧米に留学する中国人が増えている。9・11以後は、中近東からの留学生が増えている。日本はどうなるかという問題提起。文化ナショナリズムと言語の問題には直接論及はなかった。

研究会終了後、院生を交えての会食。周・宋両先生ともお話しできて良かった。

9/25(木)

朝は、ホテル前の成都小吃から小包子を2籠買ってきて朝食。

バスでセンターに。1・2年生に江戸時代の経済の担い手達の話。ところが、話し終わってから、学生が今日は演習ではなく講義の日ですと言われて間違いに気づいた。本来は、戦後経済改革を話すべきところ、2年生向けの演習の続きをやってしまった。1年生は喜んでいたら、いつか講義の今日の分を補講する必要が生じた。そのうち、夕方でも補講をしてみんなで夕食を取ることにしよう。

昼食はスパゲティ・ミートソース。パルメザンは持ってきたがタバスコを忘れていた。

新聞のトップは、訪中したカスヤノフ・ロシア首相が、中ソ間の石油パイプライン建設に賛成すると発表した記事。ロシアのアンガルスクから中国の大金まで2400kmのパイプライン設置を中国は提案している。これが実現すると、日本が提案しているナホトカまでのパイプラインは当分実現しないことになる。

1:40のバスで恵子とセンターへ。秦剛センター専任講師の『芥川龍之介「蜘蛛の糸」を読む - その空間設定及び物語構造をめぐって -』を聴く。典拠となった「因果の小車」との異同を検討しながらの見事な分析。極楽と地獄の二項対立を設定した上で、蜘蛛の糸によって地獄の全員が救われれば、地獄に人はいなくなると、二項対立は存在不能になるし、カンダタだけが救われたところで糸が切れたとすると、他を救わなかった仏は無慈悲な仏になって具合が悪いから、結局、この話は、最初から、カンダタが救われることはあり得ないことを前提においた話になっていると指摘。極楽と地獄の二項対立では可能性のない世界を設定するしかないが、2年後1920年の「杜子春」では、人間界と仙界のほかに桃の花咲く泰山の南麓つまり桃源郷を設定することで芥川は可能性のある世界を描いている。しかし、絶筆「西方の人」では、近代が表現した「世界苦」を強調して、「天国はいつか空中に消えてしまった」と書いて、死に向かった。現代でも、大槻ケンジ作詞作曲の「蜘蛛の糸」のように、救いを求めるとき、蜘蛛の糸が下がり降りてくる期待・願望は生き続けていると指摘して講演を締めくくった。

門外漢として、「蜘蛛の糸」と「杜子春」の間の1919年に5・4運動が起こり、1927年の自殺までに日中関係は極めて悪化していたという時代状況は、芥川の作品にどのような影響を及ぼしたかを質問。多分、芥川は日中関係には関心が薄かったと思うとの回答。本当に「ぼんやりとした不安」には日中関係は関係がなかったのだろうか。

久しぶりに外食にしようとして道を渡ると向かいの建物の33階の香江食府が目についたのでエレベーターで上がる。メニューを覗いてみよう程度の気持ちで行ったのだが、10%くらい英語の分かる小姐と話しているうちに小さなエレベーターでもう一階上の展望レストランに連れて行かれ、席に着くことになってしまった。

仔豚丸焼きをたのもうとしたらメイヨー(没有)なので、スペアリブにする。貝柱と絲瓜の炒め、ナス・ピーマンのすり身挟み、炒飯、ビール2本で168元。甘めの味付けで香辛料がうっすらとしか効いておらず、中国の中華料理という感じではなかった。炒飯は、インド米のような長粒米で、珍しかった。

眺望は、3環と白三路の光の帯、点在するランドマーク建物のライトアップを配してなかなか良い。東京や欧米都市なら、もっと街灯やネオンサイン、ビルの窓の灯が明るいだろが、北京の夜の街は暗い感じがする。エネルギー浪費都市とはちがうところは好感が持てる。

双安商場にブランディを仕入れに行ったが国産品は置いておらず、輸入品は買う気がしな

い値段。スーパーで食品を見学、ザボン、タバスコ、干し百合根、雲南産コーヒー(250g26.5元)を購入。

9 / 26 (金)

朝、双楡樹早市に買出し。猫の耳たぶ豆、白インゲン、カボチャ、白くて太い茎の野菜、桃、うどんを購入。猫耳豆は、平べったく少し捻れた大きめのサヤエンドウ状で周りが紫色をしている。茹でたがあまり美味しくはない。掃除の女性に訊くと細く切って炒めるとのこと。白インゲンは、莢は柔らかくて美味しい。

博物館にでも出かけようと話していたら雨が降り出したので、外出は中止。間違えた講義日を補講で調整する手配をして、講義日程表を修正。演習は1回繰り上がったので幕末開港のレジュメを作成。

新聞は、国連強化が世界平和への鍵と、中国の国連中心主義をアピールしてアメリカを牽制する記事がトップ。農村金融の改革が農民所得の向上には不可欠との記事は、全国に4万ほどある信用協同組合を、株式組織や連合組織に改組して強化する必要性を説く。中国農業発展銀行も農村に根付いた活動をするように業務内容を改善すべしと。農村と農業の改革・改善は、新執行部も力を入れている課題だ。

アメリカの企業へのアンケートでは、254企業から回答があり、10%が中国での事業は大いに儲かると答え、65%が儲かっていると答え、残り25%のうちの91%が3年以内に儲かるようになると答えた。80%以上の企業が、今後、業務を拡大する意向を示した。不安要因としては、人民元の切り上げ、金融機関の弱体、財政の悪化、社会保障ファンドの不足と指摘したと伝えている。アメリカ企業ばかりでなく外資系企業は、かなり儲けているようだ。

この勢いが、外での「中国脅威論」の原因のひとつになっているのは間違いない。

外資系企業については、一部の企業が労働組合をシャットアウトしていることを批判する記事もあった。約40万の外資系企業のうちで、5分の1程度しか労働組合を持たず、200万の私企業のうちの40%でしか組合は活動していない。外資系と私企業における労働組合結成を求める中国労働組合連合の議長の発言が載っている。

昼食は冷やしうどん。双楡樹早市では、うどんを手打ちして売っている。伸ばして折り畳むところまでは日本と同じだが、切る前に畳んだものを引っ張って薄く伸ばす。そしてさらに、細く切ってからも、左手に絡めながら右手で握るようにしてさらに細くする。かなり粘り気の強い手打ち麺だ。茹でると、極めて腰の強い美味しいうどんになった。1元で二人分とは安い。

午後、手紙を出してから双安商場前のスーパー利客隆(りかるん)にカッターナイフを買いに行く。雨はときどき激しく降る。2階で接着剤と小筆、中国産ブランディも買う。1階ではキュウリ、椎茸、ピーマン、牛乳、殻付きピーナッツ、かりんとう、切り餡。かりんとうは、すごく堅い。中国人は歯が丈夫に違いない。

ホテルの前庭にはアドバルーンが揚がって世界中医薬学会連合会結成を祝っている。ここで、結成大会が開かれているらしい。ここにはパレスという建物があって、大きな集会や会食ができる。先日は、老教授会の集会をやっていた。退職した大学教授達の集まりなのだろう。こういうのは日本にはなさそうだ。

夜はコロッケほか。ここのジャガイモのせいかわ、水っぽいコロッケになった。恵子は日本から持ってきたパン粉も少し使い勝手がちがうという。風土は、細かいところで微妙な変化をもたらすらしい。ジャガイモについては、種類の問題だろう。市場では、1種類しか見かけない。ドイツほどでなくていいが、せめて日本程度のバラエティがある方が良からう。このジャガイモでは、コロッケが流行らないのもうなずける。サツマイモにしても、もっと多品種化したら良いと思う。世界第1のサツマイモ生産国ではあるが、澱粉加工用ばかりでなく、食品としての用途開拓は可能だ。農業の発展可能性が問題になっているが、イモ類の多品種化、多用途化を図るのもひとつの道ではないか。

顔真卿の「龍」の字の練習を始める。凧用の字だ。

9 / 27 (土)

7時過ぎにタクシーを拾って出かけたが、道路混雑で前門の観光バス乗り場に着いたのは8:15。潭柘寺などへ行く第7路線に乗ろうとしたが、没有という。表示を見ると連休と祝祭日のみの運行になっている。「歩き方」には土日とあったが、変わったらしい。方針を変更して、長城・明陵へのバスに乗る(@50元)。

最初は、居庸関長城(@40元)。お月見に来たところだ。昼間は初めてで、少し西長城に登る。反転して東長城への橋まで歩く。東長城は、堀を隔てて連なり、趣がある。次が八達嶺だが、上の駐車場ではなく下に停まった。上に歩くと2000年とは様変わりだ。立ち並ぶ露店が小綺麗な常設店になっている。昼食をジャージャー麺と炒飯、ビールで済ます。麺飯が各15元だが、ビールは大瓶が40元でまたビックリ。メニューを見ないで頼んだのが運の尽き。麺飯の味は最低、ビールは高いで散々だ。

下って熊楽園に入る(無料)。月の輪のある黒熊だが、日本の月の輪熊とはちょっとちがって、鼻が少し長い。3箇所の囲いに居てタワーに登っているのもいる。ここで熊に会えるとは思っていなかったので感激。

次は明十三陵のひとつ、長陵。長陵博物館になっている(@45元)。門から3つの建物が直線に並んでいる。ひとつに、墓の主、永楽帝のブロンズ。明銭の永楽通宝でお馴染みの皇帝だ。奥に円墳状の墓山がある。手間の建物には明の初代皇帝の石碑がある。かつては木彫りだったのを、清の乾隆帝が石彫りに直したとのこと。

続いて明の定陵。入場料は60元と高い。地下宮殿があるので高いのか?ここで軍資金が尽きて入場不能になる。第7路線に乗るつもりで350元程度しか持ってこなかったのがまずかった。入口から中を覗くだけ。駐車場脇の大きな土産店の玉のコレクションと加工実演は面白かった。

ここを最後に前門ターミナルに戻る。

天安門広場に国慶節の飾り付けを見に行く。山水や長城をかたどった飾りがライトアップされていて綺麗だ。3つの代表を学習し実践しようとの幕。噴水も変化が多くて楽しめる。天安門西駅から地下鉄に乗り、2線に乗り換えて西直門へ出る。そこからバスで農業科学院まで来て、ホテルスーパーでビールを買って帰室。

マオタイビール大瓶10元は少し高いが、香りが良かった。あり合わせで夕食。なかなかの強行軍だった。

9/28(日)

朝、早起きして用用の絹布に「龍」を書いた。顔真卿流のつもりだが、縦80cm横75cmの六角だから、すこし間があきすぎたようだ。

人民大学方面に散歩。大学もホテルも道路沿いの花壇も、並木の根方も、菊・サルビア・マーガレットなどの鉢植えで綺麗に飾られている。国慶節祝賀のデコレーションだ。外国語大学や農業科学院もおもいおもいに正門付近を飾っている。昔、日本に来た中国人が鉢植えを塀際に並べている日本の家を見て、よく盗まれないですねと感心した話を聞いたが、いまやこっちが感心する番だ。可憐な小菊の鉢は持っていきたくなるほど綺麗。

双榆樹早市で黄ニラ、カリフラワー、枝豆、うどん、饅頭(@0.5元)を買う。ロバが小玉西瓜や梨を牽いて3頭来ていたが、7時前には急いで帰っていった。市内立ち入りに時間制限があるのかもしれない。

今日は、10月7日(火)の授業の振り替え日で、学童・生徒たちは学校に向かっている。大人達も仕事場へ行くようだ。昨日、月曜日の分を振り替えて、1日から1週間の大型連休にして建国54周年を祝う。

9:30の車でセンターへ。2年生が10月17日に修士論文のテーマと日本留学中の指導教員を決めることになったので、相談に乗ってほしいという。木曜日に間違えて講義をしたので1回分余裕があるので、先日に続いての相談会。

帰室して恵子の作る炒醬麺で昼食。なかなかの出来。留守中に、旅行社の賈さんが敦煌行き航空券を持ってきてくれて、現地の旅行社の人を紹介してくれた。

2:00に宋先生が航空券の手配に来てくださったので北門外の発券場で瀋陽往復を購入、往

路 470 元、帰路 620 元。なぜか帰路は割引にならない。宋先生に部屋に来ていただいて、2 年生の留学について若干の意見をお伝えし、あとは、中国事情について話を伺う。路上の物乞いについては、10 月から、北京市が予算を計上して一時収容・帰郷支援を行うことになったそうだ。人民公社時代にはなくなっていた物乞いが、改革開放後、再び出現したとのこと。ゴミ問題では、再生可能なゴミは、民間人が回収してリサイクルするシステムが昔から動いていて、今もそのようになっているとのこと。再生不能ゴミは、北京市が焼却する。

凧作りに必要なボンドを双安商場に買いに出る。セメダイン型の接着剤を買う。ついでに蛤、ステーキ肉、杏仁サラダなどを購入。舌平目のムニエルで夕食。

凧作りの準備をはじめたが、まだ完成には遠い。

9 / 29 (月)

朝は、理工大学へ歩いて焼き餅を買う。壺の中でナンのように焼く餅で、中身は、肉餡と小豆餡。おやきをつぶしたような形で、素朴な味わいが良い。北門へ回って 3 環沿いの道を歩くと、歩道はほぼレンガ舗装が完了し、土だけだった車道区分帯は、自転車（自転車）側は小灌木、自動車側は草花の植栽が済んで綺麗になっている。

9:45 に易先生と人民大学正門で待ち合わせて教室に向かう。日語系院生と日語から商学院へ進んだ院生が合計 9 人、うち男性は 2 人。『中国と日本の 5000 人 - 親和と反発 - 』を読む。ホモサピエンスの日本進出からは 4 万年くらいだし、縄文人からも 1 万数千年だから、5000 年はあまり根拠はないが、ヒブサマー期（ヒブサマー期）の移動を念頭に置いてアバウトに付けたタイトルだ。古代から現代までの日中関係史を親和と反発の観点からまとめた。結論は、歴史を見るポイントは、親和の時期が長いこと、反発が独自のアイデンティティを創ったこと、戦争の原因はいろいろだが近代戦争は資本主義下の不可避な出来事であったこと。今後の日中のあり方としては、短期的には相互の信頼関係強化、中期的には市場経済化に伴う利害対立の調整メカニズムの創出、長期的には資本主義にかわる持続可能な経済社会の創出が必要なことを語る。

信頼関係については、毒ガス事件や団体買春事件で対日感情が、福岡一家殺害事件で対中感情が悪化している現状を問題にした。買春事件は、9 月 16、17 日に朱海開発地域に日本人男性観光客 400 人が団体で来て、ホテルで売春婦を買ったという話。おまけに、ホテルにロビーに日章旗を立てると要求したようだ。売春は最古の女性の職業だし、現代中国でももちろん非法だが素人を含めてかなりの売春があることは事実だ。ホテルにそれらしい電話もかかってくる。しかし、日本人の売春ツアーが東南アジアや韓国で問題になったことを忘れて、中国でもやるとは呆れ返る。9・18 の直前に日章旗を掲げると言うにいたっては言語道断だ。日本人は首相をはじめ集团的健忘症にかかっている。ボケているから責任能力は無いということか！

人民元問題についての質問には、中国政府の対応は的確だという私見を披露。WTO 加盟の国際収支への影響がまだ確定できないこと、銀行が不良債権を抱えて脆弱なことを理由に変動相場制を拒否することは、理解できる。聞きたいテーマがあればまた来ることを約束して講義は終了。

易先生がご馳走してくださるので、恵子を正門で待ってから燕山ホテルのビュッフェ昼食へ。ザリガニの炒めを初めて食べた。敦煌行きを話すと、地方は治安が悪いから注意するようにとのこと。携帯電話を貸してくださると言われたが、ケータイはまだ使ったこともないのでご辞退。ジャガイモは、やはり 1 種類しかなく、水っぽいとのこと。なかにはホクホクしたのもあるようだ。

帰って昼寝をしてから凧作り。かたちは出来た。

ステーキで早めの夕食。肉は堅いが味は野性的で美味しい。繊維の処理をすれば食べやすくなるだろう。

6:15 にホテル内の別のアパート前から国家專家局のバスでルフトハンザ商場隣の世紀劇場へ。專家局が、国慶節行事の一環として、外人教師達を甘肅敦煌芸術劇院の公演に招待し

てくれた。民族舞踊と民族音楽、最後に「絲路花雨」と題する舞踊劇。白の衣装を照明技術と白煙で色変化させながらの舞踊は見事。琴、縦笛、横笛、二胡、八モニカ竹笛の音色も特徴的だ。歌唱はなかったが、もともと無いのだろうか。

帰ってから、凧に吊り糸・張り糸を付けて完成させた。

9 / 3 0 (火)

武先生招聘問題がトラブル。うまくやればいいが。9:30のバスでセンターへ。15:20の北京空港発で敦煌へ向かう。